

北海道札幌養護学校 全体研修会

〈全体研修会概要〉

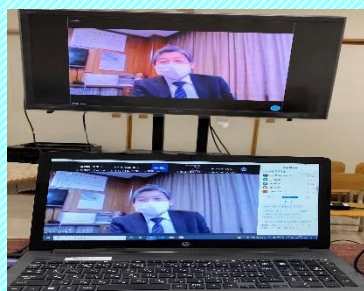
令和3年10月8日（金）、約100名の先生方が集い、「ICTを活用した、わかりやすく子どもたちが主体的に学ぶ授業づくり」をテーマに、研修会を実施しました。

この日は、小林祐紀・茨城大学教育学部准教授と水内豊和・富山大学人間発達科学部准教授の講義がありました。小林准教授の講義では、GIGAスクール構想について全国の動向を知ることができ水内准教授の講義では、ICTの活用について具体的な実践例を聞くことができました。

また、グループワークも行われ、ICTの活用について、本校では実際にどのように取り組むことができるのかを主題として、ZOOMでの意見交流や情報交換が行われました。今回は、学部の垣根を越えてのグループ編成となり、いつもはあまり関わりのない学部の実践例や悩みなどを聞くことができ、有意義な時間になりました。

これからも、ICTに関する研修を意欲的に継続していきたいと思います。

研修の様子



●グループワークでは、このようなことがディスカッションされました

1 ぶどう

とにかく使ってみる！

写真や動画は子供たちもよく見るので、色々な場面で活用できると良いですね。

動画で絵本読みやってみよう

発表会のシート発表のときに、子ども同士の撮影をしてみます。まずはやってみないかと思いました。

音楽の授業の中で、友達が発表しているのを撮影する＝対象を捉える（ということにつながるの）というアイデアを聞いて、取り入れたいと思った。

好きなもの何でも構って良いよ、ではなく、テーマを一つ提示した方がわかりやすいと思いました。例えば、好きな絵本の表紙、先生の顔、など。

授業案作成の際に、児童生徒がICT機器を使うと効果的な場面がないだろうか、という視点を持つことも大切かなあ。

2 りんご

写真活用

・学習発表会の練習でも、カメラアプリを使用することでわかりやすい提示ができる。

・振り返り学習で、自分のベストショットをいくつかの写真から選択する。

動画活用

・歌謡や器楽、手遊びなどの場面で動画撮影し、客観的に自分の様子を振り返る。

・体育の授業で動画を生徒同士で撮影しあい改善点、良かった点等を話し合う

・外部の人への動画レター

その他

・写真アプリではないが、zoom等を活用することで、不登校の生徒や学校に来ることが難しい生徒の助けになればいいですね。

・とりあえず、教員がたくさんipadを使いたくさん失敗して、学びを深めて、生徒に還元できるようにしていきたい。

zoomなどでコロナ禍でも他の学校と交流（音楽など）をすることができる。

●小中学部の授業における事例です

好きな物を作ろう

- ①画用紙やゼリーを使って前時に選んだ好きな食べ物（カレーライス2名、から揚げ1名）を順番に作る。
- ②一人の児童が作っている間、他2名の児童はカメラアプリで作っている児童の様子を撮影する。
- ③全員が作り終わったら、撮影した写真の中から友達2名のベストショットをそれぞれ選び、お気に入りする。
- ④写真のマークアップ機能、アップルペンシルを使用して、選んだ写真にコメントする。
- ⑤コメントした写真をテレビ画面に映し、友達に直接コメントを伝える。

・使用したアプリ



「カメラ」

授業を終えて・・・

メリット

- ・初めてタブレットを使用していた授業であったため生徒の興味関心が高まり積極的な姿勢が見られた。
- ・撮影した写真データや、ポスター作成をしたデータをすぐにMTがデータ集約することができ、生徒一人一人の考えを発表するなどして全体共有することができた。

デメリット

- ・生徒のタブレットを操作するスキルの差が大きかった。
- ・活動以外でもタブレットが気になってしまう生徒がいた。→アクセスガイドの機能を使用することで対応できた。

●講師の先生方、ありがとうございました



目指すは学習者主体の活用

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
教科や家庭学習など、個人・個人・個人、画面上の書き込み等を活用して、分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。 ▶A1: 教員による教材の提示  ※教科の拡大表示や書き込み、音声、動画などの活用	タブレット教材などの活用により、自分のペースで学習することが可能となる。また、一人一人の学習進捗を把握することにより、個々の理解や進捗の程度に応じた学びを推進することが可能となる。 ▶B1: 個人での学習  一人一人の学習進捗を把握することにより、個々の理解や進捗の程度に応じた学びを推進することが可能となる。 ▶B2: 異動活動  インターネットを用いた情報収集、学習や課題解決などの活用	タブレットPCや電子辞書などを活用し、学習内容の理解や教材の活用、他校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。 ▶C1: 異動学習活動  グループや学級交流での課題・探究活動 ▶C2: 授業での意見発表  授業の進捗・考えを、課題ごとに発表
▶B3: 思考を深める学習  ディスカッションなどの方法を活用し、学習内容の理解を深める	▶B4: 課題の解決  タブレット教材を用いて、課題の解決を図る	▶C3: 協働制作  グループでの対話、協働による作品の制作 ▶C4: 学校の外を舞台にした学習  遠隔地や海外での学校間での対話・発表

文部科学省（2014）「学びのイノベーション事業」研究開発報告書